

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.26

“やさしく かしく たくましく”

～ 本気と礼節の教育 ～

令和4年6月14日 文責:安生昌弘

◆ 子どもの好き嫌い

雨の日には外で遊べないので、5月末から休み時間になると1年生が学校中の先生方の顔を覚えようと探検バッグを携えて校舎内を楽しそうに歩き回っています。校長室にも数人ずつやって来て質問をしては帰っていきます。好きな色や生き物などですが、好きな食べ物を私が「ラーメンだよ」と答えると、ある子が「ぼくは魚の皮が好きです」と返してくれました。珍しいなと思うと同時に「いいなあ」と感じました。給食で魚の皮を残す子が結構いるので、子どもは嫌い好きではないのだろうと思っていたからです。昨日の給食は鮭の塩焼きでしたが、お子さんはどうだったでしょうか。



魚の皮には、ビタミンA、ビタミンB1、ビタミンB2、ゼラチン質(コラーゲン)といった栄養が含まれているとのことです。ビタミンA、ビタミンB2に関しては、身の部分よりも皮の方に、よりたくさん含まれているそうです。(「熊本県海水養殖漁業協同組合」HPより) 栄養面からも残すのはもったいないわけですが、実は私も妻も以前は魚の皮が苦手でした。それを克服できたのは、我が家の息子と娘のお陰です。二人が魚の身を残してでも皮を喜んで食べる姿を見ている内に、私と妻も皮の美味しさに気付いたのです。食わず嫌いが治った思いです。二人が皮好きになったのは、幼児期に世話を焼いてくれた私の亡母の影響です。魚の脂(DHAやEPA)が豊富な皮を好んで食べていたので、二人とも皮好きになりました。子どもの好き嫌いには周囲の大人の影響が大きいのではないのでしょうか。

我が家の息子と娘にも嫌いな物がないわけではありません。息子は納豆が、娘は生クリームが嫌いです。息子には幼児期に喜んで食べる納豆を食べさせ過ぎたようです。娘については不明です。いずれにしても、食べ物の好き嫌いが少なければ少ないほど、健康を維持できると同時に、食べる楽しみを十分に享受できる人生を送れることは確かです。少なくとも食わず嫌いは、子どものうちに克服させたいものです。もちろん食物アレルギーは別ですが……。

◆ 小学生は歩くことで育つ

先々週放送のNHK「チョコちゃんに叱られる!」をご覧になりましたか。「子どもは、なぜ走り回るのか」について解き明かしていました。子どもは走ることで、主に運動感覚(=筋肉や関節のコントロールや自分の体の大きさや位置を知る働き)と平衡感覚(=体の傾き、前後左右上下や回転などの動きを感じる働き)を鍛えることになるそうです。この2つの感覚が育つにつれて子どもはより複雑な動きが出来るように成長しますが、より強い刺激を求めてあちこちを走り回るようになるので、答えは「早く育ちたいから。」だそうです。



1年生は冬が近づく頃になると、幼児期に比べて格段に体力がついて病気をしなくなっています。登下校で結構な距離を毎日歩くようになるからだと感じていましたが、これも体への刺激になって心肺機能も含めて早く育つことになるのだなと合点がいました。今日の朝も昇降口に到着した何人かの1年生からは「フー(やっど奮た)」という声がこぼれていました。“成長のために、がんばれ1年生!”

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。